

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

事業所番号	0177600236		
法人名	株式会社マーファ		
事業所名	グループホームはなかわ		
所在地	石狩市花川東1条3丁目12番地		
自己評価作成日	平成 28年 11月 22日	評価結果市町村受理日	平成29年1月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaijokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0177600236-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミクス総合研究所 介保調査部
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階
訪問調査日	平成 28年 12月 20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が自然と笑顔になる暮らしを提供する為、職員同士笑顔の確認を行い、その後業務に取り組むようにしています。レクリエーション活動はもちろん、入居者様の好みの話を切り出し、話しやすい環境づくりを心掛けています。入居者様の気分転換を図る為、外出行事等を頻繁に行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、石狩市役所から東方向に位置し、道道茨戸花畔線沿いの閑静な住宅地にある2階建て2ユニットのグループホームである。ホームの玄関を開けると右側に利用者の居室が並んでおり、左側には階段、事務室、台所と続き、台所から広い食堂とリビング、サンルームが見渡せる配置である。運営法人は、札幌市内で高齢者向けマンションや訪問介護サービス、ペット可の賃貸住宅、人材派遣事業など多彩な事業展開をしており、事業で培ったノウハウを運営に活かしている。ホームの理念は「元氣な挨拶、明るい笑顔、やさしいことば」として、ユニット間で職員交代勤務を行うなど人材育成に努め、利用者ひとり一人に寄り添ったケアを実践している笑顔あふれる事業所である。事業所主催の夏祭りには、取引業者の応援もあり、地域の方や家族など300人以上が参加する盛大なイベントとなり、地域でも楽しみな行事となっている。地域密着型サービスの事業所としてこれからも期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/> 1 毎日ある <input type="radio"/> 2 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3 たまにある <input type="radio"/> 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/> 1 ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3 たまに <input type="radio"/> 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1 大いに増えている <input type="radio"/> 2 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3 あまり増えていない <input type="radio"/> 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は出勤時に、申し送り時と職員会議時にホーム理念を唱和し意識強化を図っています。日々職員や来訪者様が確認できるように共用部や、会議室等に掲示しています。	事業所の理念は、職員が検討して作成したもので、「自然と笑顔になる暮らしを提供します」とするもので、特に「あいさつ、スマイル、ことば」の3点を重要としており、事業所内に掲示し、申し送り時と職員会議で唱和して、共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏には駐車場で夏祭りを行ない、町内へ回覧板にて告知し毎年多くの方に参加して頂いています。地域のお祭りや演奏会にも出かけ地域の方との交流をもって頂いています。災害時の連絡体制や冬期の除雪作業もご協力いただき	地域の行事やお祭りなどに参加している。また、事業所主催の夏祭りには、取引先の応援もあり、家族や町内会・地域の方が300人程参加する大規模なイベントとなっており、地域との相互の交流が盛んである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実際の介助現場における事例等や外部研修で得た知識を、地域運営推進会議等で勉強会・報告を行い、ご家族様、地域の方に、認知症の方への理解や支援方法を、理解して頂けるよう活かしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回地域運営推進委員会・家族会を開き、地域の方の意見や意向を毎月の職員会議で、管理者を含め職員全員で検討し、出来る事から徐々に取り組んでいます。	運営推進会議は、市担当者や地域の方、民生委員、家族が参加して、運営状況の報告と意見や要望聞く機会となっている。また、会議終了後に家族会を開催し勉強会を行うなど積極的な運営推進会議の活用を行って、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に1回地域運営推進委員会には、市の職員の方に参加して頂き、事業所のケアサービスの取り組みをお伝えしております。また、高齢者支援課の介護支援相談員来訪時には、ケアや制度等の疑問など相談しています。出席出来る時はケア会議、グループホーム交流会へ参加し意見交換をしています。	運営推進会議に市担当者が参加しており、運営状況の報告や意見、助言などを受けており、ケアや介護保険制度などについて、意見交換や相談できる協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議やカンファレンスで定期的に勉強会を行い、理解を深めています。玄関の自動ドア内側上部には、開錠ボタンを付けており、利用者も開錠することが出来ます。各ユニットから玄関ホールに入居者の出入りがある場合は、音でわかるようにしています。自損どうしてもやもえない時の対応の仕方も勉強会にて理解を深めています。	身体拘束をしないケアの指針やマニュアルを整備して、会議等で定期的に勉強会を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。センサー等の使用については、介護計画に組み込んで家族の同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会やカンファレンスで全職員に対し、虐待防止について学ぶ機会を持っています。又、ケアサービスを行うにあたり、管理者を中心に虐待などはないかを、日々の申し送りや身体チェック表の確認を行い注意をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学んだ知識や入居者様の権利擁護に関する勉強会も地域運営推進委員会で行い職員もカンファレンス等で再確認し、ご家族様と話し合いの場をもうけ、必要性について話し合いを行っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の内容を読み上げ説明しています。質疑応答に答え十分に納得して頂き同意の上、サイン、捺印を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様来訪時には、ホーム職員から話し掛け、意見をお伺いする様になっています。また、運営推進会議や家族会に参加されるご家族様も多く、意見を言って頂き、要望を実践出来るよう職員は話し合い反映しています。	運営状況は、2ヶ月毎にホーム便りを発行しており、個人の生活状況もお便りの中に個々に記入して、家族へ報告している。家族からの意見や要望は、意見箱を設置し、アンケートを実施したり、家族会で聞き取るなどして運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回全体会議を行い、社長も含め職員全員が参加し意見交換しています。管理者と職員の面談も随時実施しています。また、各職員が役割分担し、運営に参加しています。	毎月全体会議を行っており、代表者による個人面談も定期的を実施している。また、個人目標の面談もあるため、職員からの意見や提案を聞く機会となっており、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者・職員の能力に応じ昇給や賞与に反映させている。また、向上心を持って働ける様に、職員各自に役割を分担しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加したり、毎月1回は勉強会を行いますスキル向上に努めています。また、日々の業務でも、ベテランの職員が、新しく入った職員に対して、勉強の時間を作る事と、日々のミーティング等で、情報の共有や、身体介護、精神介護の向上を図ります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	外部研修の仲間や地域の同業者との勉強会や交流会に参加し、他の施設の方の意見などを参考にサービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や心配事は十分に傾聴し受容を常に心がけ、「自然と笑顔になる暮らし」づくりを行い、不安軽減に努めております。言葉で上手く伝えられない方にも、行動や態度から不安要素を捜し、安心できる関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が困っていることや不安なこと要望をお聞きし、ホームの介護をどのようにおこなって行くか説明し、同意して頂き、まめに報告、連絡、相談することで良い関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用様と、ご家族様の要望を聞き(表情や態度からも感じとり)優先順位を見極め、支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員一人一人が「共生・共存」に努めております。利用者様と一緒に暮らしている気持ちを大切にしています。また、手摺拭き・食器洗い・調理補助・テーブル拭き等、入居者様にして頂き、暮らしを共にする同士の関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と報告、連絡、相談と良い関係を築き、共に支え合っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた町内の方々や友人や知人、来訪する事もあり、電話の取次ぎなども行っています。なじみの美容室や、昔利用されていた、スーパーと一緒に行くこともあります。ご家族様と共に、一時帰宅し、外食や買い物に出かけられる入居者様も多くいます。	利用者は地元出身が殆どで、家族や友人・知人の来訪が多い。馴染みの店や美容室などへは、職員が同行し買い物などの外出時に尋ねたりしており、関係継続が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士、互いに助け合っている場面も見受けられており、楽しんでレクリエーションを行えるよう、スタッフが間に入り、環境作りを実施しております。笑顔が多い生活を支援できるよう努めております。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域運営推進委員会や夏祭り、クリスマス等のイベント時に、ご連絡し、参加して頂いております。また、ご家族、身内の方で相談があれば、いつでも対応しています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様やご家族様に定期的にアセスメントし、今迄の生活習慣を大切にしています。言葉で表現する事が難しい場合は、表情や仕草、ご家族様からの情報をもとに、把握しています。アセスメントシートを元にカンファレンスを行ないます。	アセスメントシートを活用して、ひとり一人の思いや意向を把握するよう努めている。困難な場合は、表情や仕草、家族からの情報収集などして、本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様とお話しをし、生活歴・馴染みの暮らし方・生活環境・今までの経緯などを十分に傾聴し、全職員が把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人一人の身体状態・食の好み・生活習慣、癖などを理解し、職員が情報を共有し、個人に合った支援を行っています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスでは、参加職員に意見を聞き、介護計画のありかたについて検討したり、ご家族・医師・歯科医師等と連携をとり、現状に即した介護計画を作成している。	日々の記録は職員がそれぞれ記入しており、それを基に毎月のカンファレンスでひとり一人の気付きを検討して、家族の意見も取り入れて現状に即した介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月毎に行い必要に応じて見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝の申し送りで、気が付いたことは、報告し、毎日の入居者様の様子、変化時は、必ず記録し、介護支援チェックシートを毎日記録し、ケアプランの評価・見直しを図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様・ご家族様・職員と相談しながら、柔軟な姿勢を心掛け、ご希望により、訪問マッサージや、鍼灸・訪問歯科等に來ていただき、ニーズに対応する様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方に来て頂き、お話しを聞いて頂いたり、演奏やゲームを楽しんで頂いています。近隣のスーパーや地域の行事に参加しています。また、近隣の公園や花見・海へのドライブなども行い、地域の方との挨拶・交流を図っております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関による月2回の往診があります。かかりつけ医を受診する場合、家族対応が難しい場合は、ホームで通院を支援しています。受診内容を利用者毎に「受診記録」に記載し、必要に応じて家族に報告しています。	専門医等のかかりつけ医は、原則家族が同行して受診している。協力医療機関の月2回の往診があり、週2回の看護師勤務と連携して24時間の医療体制で、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が定期的に出動し、入居者様のバイタルチェックと心身状態の聞き取りチェックを行ない、スタッフも気が付いた所は、相談しますし、勤務日以外でも、電話・メールでの相談をしております。必要な場合には、提携医療機関の訪問看護師にも連絡し、指示をうけ、受診や看護を受けられるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、必ず情報交換を行い、ご家族様や医療機関との相談をいつでも受け入れる体制を撰っている。早期に退院できるよう、ご家族様、医療機関とも細かく報告・連絡・相談を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に、症状が重度化した場合の指針や、当施設におけるターミナルケアについてを、ご家族様に、説明、理解して頂き、署名・捺印して頂いております。実際に重度化した場合に備えて、事前アンケートをキーパーソン様は勿論、ご家族様で話し合った結果を、記録しております。ただし、意見は定期的にお聞きし、医師・家族と相談の上、支援内容を決定し、取り組んでおります。	重度化や終末期についての対応は、契約時に同意を得ており、重度化した場合は、再度説明し確認書を交わしている。家族の意見や要望を聞き話し合いながら、主治医や看護師と連携して対応している。	重度化した場合や終末期についての研修会や事前アンケートを家族に行うなどして対応しているが、看取りの実務においての基本となるマニュアルの整備を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の避難訓練に応急手当や初期対応を含め、定期的に訓練を行い、職員の実施力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回避難訓練を全職員で行い色々なシミュレーションを実施している。地域の方やご家族様に緊急通報時には、自動的に連絡が届く設定にしてあり、防災訓練の内容等の報告や実施に協力して頂いております。又、地域の防災訓練にも、職員が参加しています。	毎月1回全職員で避難訓練を実施しており、その内2回について、消防署の指導の下、地域の方や家族の協力にて実施している。また、マニュアルや備蓄も整備して災害対策を行っている。	避難訓練を毎月行うなど災害対策に積極的に取り組んでいるが、地震や停電などの火災以外の自然災害等への訓練や簡易ストーブなどの緊急時の備品整備の対応も期待したい。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様への親しい関係性の中でも、尊厳とプライドを損なう様な事のない言葉かけを行ない、ホーム理念を元に、対応しております。内部研修でも、接遇やプライバシー保護も学んでいます。記録類は、事務所で安全に管理しています。	人格の尊重とプライバシーの確保は、事業所の理念である「あいさつ、スマイル、ことば」を基に研修や勉強会で職員が確認しながら、利用者の人格を尊重した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が言いやすい環境作りを心がけており、本人の意思を尊重し、出来る事をして頂いたり、協力しあう関係作りを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	個人個人の一日の生活リズムをなるべく乱さないように、トイレやお茶、お昼寝などその人に合ったペースで一日を過ごして頂いて利ます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が今まで行ってきた身だしなみへのこだわりを大切に毎日清潔な下着と衣類を付けて頂き、衣類も職員と選択しながら、決めていきます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を取り入れ季節の野菜と果物を使いながらホームで献立を作成し、食材の買い物に利用者も一緒に出掛けています。個々の能力に応じて、調理や盛り付け、後片付けなどを手伝っています。畑で採れた野菜も取り入れ、職員も一緒に同じ食事をしています。	利用者と職員と一緒に買い物から調理、配膳や片付けなども個々の能力に応じて行っている。外食は、ホテルのレストランや和食店、駐車場でのバーベキューなど多彩で楽しみな食事となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表や水分摂取表を作成し、職員全員が把握できるようにしている。また、嚥下状態に合わせてミキサー食を取り入れています。水分摂取量が少ない利用者様には、ご家族に確認し、トロミやゼリーで好みに合わせ摂取して頂くよう工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床・毎食後・就寝前は必ず口腔ケアを行い、利用者のADLに合わせて、介助させて頂いている。必要時定期的に訪問歯科を受けてチェックしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様各自の排泄チェック表を作り、パターンを把握して誘導しています。誘導の際には、羞恥心に配慮し、小声でさりげなく声掛けしています。日中は、ほぼすべての入居者様がトイレで排泄出来ており、オムツをなるべく使わない様になっています。また、入居者様の動きやしぐさ等も考え排泄の誘導をしています。	利用者個々の排泄チェック表に基づいて、職員間で共有し、利用者ひとり一人の仕草や表情で誘導して、トイレでの自立に向けた排泄の支援を行っている。また、夜間の為の簡易トイレも利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の申し送りにて、一人一人の排便回数をチェックし、個々に応じて、おやつなどにヨーグルト食物繊維パウダー・腹部マッサージ主治医への相談を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	午後の時間帯で入浴していますが、希望があれば、夜間もシャワー浴の対応しています。利用者は週2～3回の入浴をしています。入浴時に職員とゆっくりと話をしたり、リハビリ体験をして楽しんでおり、同性介助も行っています。	入浴は週2～3回で、利用者の希望により夜間のシャワー浴など自由に入浴できる体制に努めている。また、入浴時の職員との会話が楽しいひと時となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人一人の生活習慣や睡眠のパターンを観察し把握し、申し送りにて、安眠状態を把握し、その日の体調や様子に応じて、寝不足や体力が低下している場合には、お昼寝等をして対応しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の個人ファイルには、最新の薬剤情報を貼り付けて、職員に周知しています。また、処方が変わった際には、必ず連絡しています。カンファレンスなどで、症状の変化などを検討して、受診の際に先生に報告・連絡・相談しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様のライフヒストリーを把握し、趣味や好みを把握し、談話やレクリエーション・家事作業や畑仕事を行い、気分転換を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩や買い物に出かけたり、ホームの畑で作業をしています。年間行事では花見やピクニック、花火大会、紅葉狩り、食事会などに出かけており、交代で利用者全員が出かけられるようにしています。冬でも買い物に同行したり、雪祭りや菊祭りの見学に出かけています。また、ご家族様にも協力して頂き、遠方の買い物等に出かけて頂いております。	駐車場に菜園があり、その作業や近隣の散歩、買い物など日常的に支援している。外出行事では、花見やピクニック、花火大会、紅葉狩りなど多彩で、事業所主催の夏祭りは家族や地域の方が300人程参加するなど盛大な行事となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、主に職員が行っているが、希望があった場合や、必要性のある場合は、ご家族と相談し了解を得たうえで、買い物やお祭りで、ご自身に持参して頂き、会計もして頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が希望する場合は、ご家族様などに電話をかけたり、電話の取次ぎはその都度しています。知人へはがきを書いて出したりしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下、食堂などの教養空間は全体的に広く、台所から食堂・居間・サンルーム全体を見渡すことが出来ます。居間には、活動意欲を高める遊び道具や書籍などが豊富にそろっています。壁にはカレンダーや季節の飾りつけ、入居者様の写真等を掲示し、家庭的な雰囲気を作っています。湿度や温度も調整され快適に過ごす事が出来ます。	共用空間は、採光や風通しもよく、サンルームもあり、広くゆったりとしたリビングである。台所から食堂・リビングが見渡せ、配慮した作りである。季節の飾り物や利用者の写真などが掲示され、温度や湿度も管理しており、寛ぎの場所である。また、移動式リフトも常備し、介助に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様がリビングでの居場所を持ち、廊下や窓際に椅子を置いたりし、窓の外を眺めたり、リビングで談話を楽しんだり、思い思いに過ごして頂ける様工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口に利用者様の写真を飾っています。居室内には使い慣れたタンスや仏具、馴染みの物を持ち込んで、居心地よく過ごす事が出来ます。壁にもカレンダーや写真、症状、花などを自由に飾ることが出来ています。	居室には大きな収納を設置し、入口には利用者の写真を飾るなどして間違いないよう配慮している。また、利用者が使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所・トイレは、車いす対応になっており、廊下に手すりを付け歩行や移動が出来やすい様に、なっております。また、物を置かないように安全面にも配慮している。		